

ふれあい つながり かわら版

令和3年度 小中一貫教育スタート

新学期が始まり、一か月が経ちました。年度当初の第一回担当者会は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、動画配信による開催となりました。今年度も担当の先生方を中心に、各ブロックの全ての先生方で小中一貫教育の推進をお願いします。

さて、各ブロックには、今年度から来年度末の2年間でブランドカリキュラムの作成をお願いします。ブランドカリキュラムとは、学校や地域の実態に応じた目指す子供像の具現化に向けた9年間を貫く特色ある教育課程のことです。第一回担当者会の中で、佐竹校長先生と松岡校長先生が、わかりやすく説明してくださっていますので、改めて紹介します。

義務教育を6年間と3年間で捉えるのではなく、9年間でどのような力をつけるのかという意識を持つことが大切です。その9年間の道標となるのがブランドカリキュラムであり、義務教育のゴールが目指す子供像です。それぞれの校区の子供たちのよいところや課題を、小中合同の場で、担当だけでなく多くの教職員が本音で語る中で、課題を焦点化し、目指す子供像をしばってはどうか。目指す子供像が決まれば、それぞれの発達段階における学校教育目標が決まります。そして、その達成のもととなる力を具体的に考え、発達段階に応じて、どの教育活動で、どんな力をつけてくのかを考えていけば、ブランドカリキュラムができあがります。(四郷学院 佐竹校長先生)

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育・ICT教育推進係
(079)221-2120



今年度はブランドカリキュラムの作成が中心になります。その際に何をそこに描くのが大きなポイントです。ブランドカリキュラムはその名のとおり、各ブロックの特色出しです。ぜひ先生方の知恵を集め、各学校、各ブロックの夢や思いをそこに存分に描いていただきたいと思っています。そのもととなるのは、先生方が取り組まれている教育課題や内容、子供にこの力をつけたいという願いだと思っています。それらをぜひ先生方で共有しながら、ブランドカリキュラムの中に大きく夢を描いていただきたいと思っています。(城西小 松岡校長先生)

カリキュラムづくりのスタートは 目指す子供像の設定から

どちらのお話にも共通することは、ブランドカリキュラム作成の際には、子供の姿をもとに、小中教職員間の対話を通して目指す子供像を検討することが大切だということです。先生方が子供たちと関わる中で見えてきた子供の良い点や課題、つけたい力などは、普段の先生どうしの会話の中でも共有されていることと思いますが、これを校内やブロックに広げ、整理することを通して、目指す子供像に先生方の願いを反映させてください。

また、学校評価、全国学力・学習状況調査、姫路市教職員・児童生徒意識調査などの結果からは、客観的に見た子供の実態が把握できます。第一回担当者会の動画では、姫路市教職員・児童生徒市意識調査

の結果をもとにした子供の実態を把握するのに役に立つ方法やツールを紹介しているので参考にしてください。

昨年度はブロックや地域の実態に応じた目指す子供像や、その実現のための取組を各学校で見つめ直す一年でした。今年度はそれらを再確認し、改めて検討することからブランドカリキュラムの作成を始めてください。

カリキュラム作成を支援します

第一回担当者会の動画視聴後のご意見には、ブランドカリキュラムの作成の目的や意味について理解できたという記述が多くありました。一方で、コロナ禍での教職員間の連携の図り方や、作成の細かな手順、負担感などの心配もありません。市教委としてもできる限り各ブロックの取組を支援していきます。

①参考資料の提供

ブランドカリキュラム作成の手引書として各学校に配布している「姫路市小中一貫教育つながりカリキュラム」等の参考資料を Google Classroom での先生も見られるようにしています。

②「ふれあい つながり かわら版」の発行

ブランドカリキュラム作成のポイントや、具体的な事例を、今後の「かわら版」で紹介します。

③指導主事の派遣

ブロックの要請に応じて指導主事が訪問し、ブランドカリキュラム作成に関する助言や研修等の支援を行います。内容についても、ブロックの希望や進捗状況に対応したいと考えておりますのでご相談ください。